



(19)

(11) Publication number:

55129341 A

Generated Document.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(21) Application number: **54038092**

(51) Intl. Cl.: **G03C 1/71 C08L 61/10 G03F 7/08 H01I 21/302 G03C 1/52**

(22) Application date: **29.03.79**

(30) Priority:

(43) Date of application
publication: **07.10.80**

(84) Designated contracting
states:

(71) Applicant: **DAICEL CHEM IND LTD**

(72) Inventor: **KUBO KEIJI
ISHIHARA TETSUO**

(74) Representative:

(54) PHOTSENSITIVE COVERING COMPOSITION

(57) Abstract:

PURPOSE: To enhance the coating properties of a photosensitive composition prepared by blending an alkali-soluble phenol-formaldehyde resin with a photosensitizer and enhance the coat characteristics of the resulting film by adding a specified resin such as epoxy resin.

CONSTITUTION: To a photosensitive composition prepared by mixing a photosensitizer such as 4,4'-diazidophenylamine and an alkali-soluble phenol-formaldehyde resin such as phenol-novolak resin in a ratio of about 1:0.5W6 by wt. is added 5W40wt%, preferably 7W30wt% of one or more kinds of resins selected from epoxy resin preferably having a MW of about 500 or less, butyral resin preferably having a butyral conversion degree of about 60W70mol% and obtained from polyvinyl alcohol having an average polymerization degree of about 250W2,000, acrylic resin, preferably acrylic acid-acrylic acid ester copolymer, and butyl-etherified phenol resin, preferably butyl-etherified resol type phenol resin.

COPYRIGHT: (C)1980,JPO&Japio

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55—129341

⑬ Int. Cl.⁸

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和55年(1980)10月7日

G 03 C 1/71

6791—2H

C 08 L 61/10

7455—4J

G 03 F 7/08

1 0 3

7267—2H

H 01 L 21/302

6741—5F

G 03 C 1/52

発明の数 1

審査請求 未請求

(全 5 頁)

⑮ 感光性被覆組成物

⑯ 発明者 石原哲男

伊丹市昆陽字佐藤前22の1

⑰ 特 願 昭54—38092

⑰ 出 願 人 ダイセル化学工業株式会社

⑱ 出 願 昭54(1979)3月29日

堺市鉄砲町1番地

⑲ 発 明 者 久保圭司

⑳ 代 理 人 弁理士 野河信太郎

尼崎市次屋字林シ238

明 細 書

1. 発明の名称

感光性被覆組成物

2. 特許請求の範囲

1 感光化剤とアルカリ可溶性フェノールホルムアルデヒド樹脂を含有する感光性組成物において、該組成物中にエポキシ樹脂、ブチラール樹脂、アクリル樹脂及びブチルエーテル化フェノール樹脂より選ばれる少なくとも1種の添加剤を5～40重量%含有することを特徴とする感光性被覆組成物。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、感光化剤、アルカリ可溶性フェノールホルムアルデヒド樹脂及び添加剤からなる改良された塗工性及び良好な被膜を与える感光性被覆組成物に関するものである。

従来アルミニウム、亜鉛の如き金属板の支持体上に感光性材料として、アジド化合物、0-キノ

ンジアジド化合物又は有機溶剤可溶性ジアゾ化合物と、且つアルカリ水溶液で現像可能なフェノールホルムアルデヒド樹脂を含む溶液を塗布し、印刷版として使用する方法は公知である。また、上記の感光性被覆組成物は、金属メッキ用、あるいは金属、セラミック、ガラス等のエッチング用のフォトレジストとしても利用される。

しかしながら、フェノールホルムアルデヒド樹脂を使用したこの種の公知の被覆組成物は、フェノールホルムアルデヒド樹脂の重合度が低いために塗工に当って溶液粘度を上げることができず塗工性に劣り、また、この被覆組成物より得られる被覆層は、被覆が脆いこと、引抜き傷が付き易いこと、耐摩耗性に劣ること、基質の金属板に対する接着性が悪いこと(接着性が悪いと、例えばフォトレジストのエッチングの際にアンダーカットのレリーフしか得られない等の不都合が生じる)、ピンホールが多い等の被膜特性上の欠点を有していた。

これを改良する目的で、ポリ酢酸ビニル、エチ

(1)

(2)

ルセルローズ、アセチルブチルセルローズ等の親油性高分子化合物やフタル酸エステル類、グリコールエステル類、リン酸エステル類、脂肪族二塩基酸エステル類等の可塑剤を添加することが行われている。しかし、前記の如き高分子化合物は塗工工程において使用する有機溶剤への溶解性に限度があり、一定量以上加えても溶解せず、また前記可塑剤は現像液に溶解しやすいので多量に用いると、残存させるべき部分までも溶解してしまい、うまく現像することができない。このようなことから、これらの添加剤は、いずれも感光性組成物全量に対して1～5重量%の範囲でしか用いることができず、上記塗工性や被膜特性上の問題を十分に解決するには至っていない。

本発明の発明者らは上記のような欠点を改善するために鋭意検討の結果、通常の感光化剤とアルカリ可溶性フェノールホルムアルデヒド樹脂を含む感光性組成物に、エポキシ樹脂、ブチラール樹脂、アクリル樹脂及びブチルエーテル化フェノール樹脂（これらは、いずれもフェノールホルム

(3)

可溶)等が挙げられる。その代表的なものを例示すれば下記の通りである。

(i) アジド化合物：4，4'-ジアジドジフェニルアミン、3，3'-ジメトキシ-4，4'-ジアジドジフェニル、4，4'-ジアジドスチルベン、4，4'-ジアジドカルコン、2，6-ジ-（4'-アジドベンザル）シクロヘキサノン、1-アジドピレン

(ii) 0-キノンジアジド化合物：1，2-ベンゾキノンジアジド(2)-4-スルホン酸または1，2-ナフトキノンジアジド(2)-5-スルホン酸とフェノールホルムアルデヒド樹脂とのエステル、1，2-ベンゾキノンジアジド(2)-スルホン酸または1，2-ナフトキノンジアジド(2)-5-スルホン酸とポリヒドロキシフェノールまたは2，3，4-トリヒドロキシベンゾフェノンとのエステル

(iii) ジアゾ化合物：p-ジアゾジフェニルアミンとホルムアルデヒドの縮合生成物とp-トル

(5)

アルデヒド樹脂との相溶性が優れている)から選ばれる少なくとも1種を添加した組成物とすることにより、塗工性が改良され、また、この組成物より得られる被覆層の被膜は柔軟性に富み、引掻き傷が付き難く、耐摩耗性が改良され、基材との接着性に優れ、 11字挿入
ベンホルが非常に少なく均一で美麗である等の優れた被膜特性を示すことを見出し本発明に到達した。

即ち、本発明は、感光化剤とアルカリ可溶性フェノールホルムアルデヒド樹脂を含む感光性組成物に、エポキシ樹脂、ブチラール樹脂、アクリル樹脂及びブチルエーテル化フェノール樹脂より選ばれる少なくとも1種の添加剤を5～40重量%添加してなる感光性被覆組成物を提供するものである。

本発明の感光性組成物に用いることのできる感光化剤としては、ジャロミラ・コサ- (Jaromir Kosar) 著「Light-Sensitive Systems」(John Wiley & Sons Incorporation) の第321～352頁に記載されているアジド化合物、0-キノンジアジド化合物及びジアゾ化合物(有機溶剤

(4)

エンスルホン酸または2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸との反応生成物

本発明の感光性組成物に用いることのできるアルカリ可溶性フェノールホルムアルデヒド樹脂としては、通常フェノールノラック樹脂、m-クレゾールノラック樹脂、カシュー-変性ノラック樹脂、アルキルフェノールとフェノール等との共縮合ノラック樹脂等が適当である。これらは、単独で用いるのみでなく、混合してもさしつかえない。

本発明の感光性組成物中の感光化剤とアルカリ可溶性フェノールホルムアルデヒド樹脂との割合は、感光化剤により異なるが、一般的には、重量比が2：1～1：6の範囲が好ましい。

本発明の組成物に添加される添加剤としては、エポキシ樹脂、ブチラール樹脂、アクリル樹脂及びブチルエーテル化フェノール樹脂がある。

エポキシ樹脂としては通常の市販のものが使用

(6)

できるが、常温で液状で、分子量500以下のものが好ましい。例えば、常温で液状で、分子量500以下のビスフェノールA、ビスフェノールF、ハロゲン化ビスフェノールA又はレゾルシンとエピクロヒドリンとの縮重合体が好ましいものとして挙げることができる。市販の商品としては、例えばシエル化学社製のエピコート815、エピコート827、エピコート828等が好ましいものとして挙げられる。

ブチラール樹脂としては、市販の有機溶剤可溶性のブチラール樹脂なら全てのものが使用可能であるが、好ましくは、平均重合度250~2000のポリビニルアルコールから得られるブチラール化度60~70モル%のものがよい。

アクリル樹脂としては、アクリル酸とアクリル酸エステル、例えばアクリル酸メチル、アクリル酸エチル、アクリル酸ブチル、アクリル酸2-エチルヘキシル等との共重合体が好ましい。これらの共重合体は、アクリル酸含量が多くなるとアルカリ水溶液に対する溶解性が增大し、このような

(7)

や用途によつて染料や増感剤等を含有することができる。

本発明の感光性被覆組成物は、前記した混合成分を有機溶剤に加え、溶解させることによつて調製することができる。この場合の有機溶剤としては、トルエン、キシレン、ベンゼン、酢酸エチル、酢酸ブチル、セロソルブアセテート、メチルエチルケトン、シクロヘキサノン、セロソルブ(メチルセロソルブ、エチルセロソルブ、フェニルセロソルブ等)、ジオキサン等が単独あるいは混合溶媒として用いられる。

このようにして調製した塗布液は、従来公知の方法、例えばロール塗布法、エアナイフ塗布法、浸漬法、回転塗布法、スプレー塗布法等によつて種々の基板の上に塗布し、乾燥せしめることによつて感光性被覆層を形成せしめる。かかる基板としては、アルミニウム、亜鉛、銅等のような金属板、ポリエチレンテレフタレート、ポリステレン、ポリプロピレン等のようなプラスチックフィルム、上記のような金属がラミネートもしくは蒸着され

(9)

アクリル樹脂の添加によつて組成物全体の溶解性が増加するので現像性に悪影響を及ぼすので、アクリル酸含量が数重量%以下のものが好適に使用される。また、適度の平均重合度のものが用いられ、30°Cにおける粘度(バルク)が3000~6000cpsのものが好ましい。

ブチルエーテル化フェノール樹脂としては、熱反応型のフェノールホルムアルデヒド樹脂(レゾール型フェノール樹脂)をブチルエーテル化したものが用いられる。

本発明において、感光性組成物に添加するエポキシ樹脂、ブチラール樹脂、アクリル樹脂及びブチルエーテル化フェノール樹脂より選ばれる少なくとも1種の量は、感光材料の現像性に悪影響を与えない程度にとどめるべきであり、一般的には感光性組成物に対して5~40重量%、好ましくは7~30重量%の範囲である。5重量%より少ないと添加の効果が得られず、40重量%より多く添加するとアルカリ現像性が損なわれる。

又、本発明の組成物は、その成分化合物の種類

(8)

た紙もしくはプラスチックフィルム等が含まれる。

本発明の感光性被覆から得られる感光材料はカーボンアーク灯、水銀灯、キセノンランプ、タングステンランプ等の光源により露光されたのち、現像液で処理する。現像液としては、基本的には従来から公知のアルカリ溶液が使用される。例えば、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、ケイ酸ナトリウム、第3リン酸ナトリウム等のアルカリ類やエタノールアミンのような塩基性溶剤等の水溶液がある。これらのアルカリ水溶液は単独であるいは混合して用いることができる。更に必要な場合には、これらのアルカリ水溶液にある種の有機溶剤、例えばベンジルアルコール、イソプロピルアルコール、メチルセロソルブ等を加えることも可能である。又、特に必要ならば現像液の中に界面活性剤を添加することもできる。

次に実施例を挙げて本発明を例証する。

実施例1 及び 比較例1

感光化剤(1, 2-ナフトキノンジアジド(2)-5

00

実施例 4

光増感剤 (実施例 1 と同じ) 5 g

アルカリ可溶性フェノールノボラック樹脂 10 g

アクリル樹脂 (アロン SP-9001, 1.5g
東亜合成製)

溶 剤 (メチルエチルケトン/メチルセロソ

ルブアセテート = 2/1) 100 g

実施例 1 と同様の操作により同様の良い結果を得た。

実施例 5

赤色有機着色染料を含有するアルコール可溶性ポリアミドからなる有機被覆層を乾燥した厚さ20 μ になるように、二軸延伸ポリエチレンテレフタレートフィルムに被覆した。実施例 1 の感光性組成物を得られたポリアミド層に乾燥した厚さ3 μ に被覆して感光性フォトリソ層を形成させた。この感光性シート材料を、3 KW 超高圧水銀灯の光源から1.0 m の距離で、ネガフィルムを通して

09

上記組成物を用いて実施例 3 と同様の操作を行い、良好な結果が得られた。

実施例 7

光増感剤 (実施例 1 に同じ) 5 g

アルカリ可溶性フェノールノボラック樹脂 10g

ブチルエーテル化フェノール樹脂 (実施例 2 に同じ) 3 g

アクリル樹脂 (実施例 4 に同じ) 1 g

ブチラール樹脂 (実施例 3 に同じ) 0.5g

溶 剤 100g

(メチルエチルケトン/メチルセロソルブアセテート/酢酸ブチル = 4/2/1)

上記組成物を用いて実施例 1 と同様の操作を行い、良好な結果を得た。

代理人 弁理士 野 河 信 太 郎

50 秒間露光し、5 多メタケイ酸ナトリウム水溶液で2分間現像し、現像後水洗した。

次に、トルエンスルホン酸ナトリウム、アルコール及び水からなる処理液を浸ませた脱脂綿で現像したシート材料を軽くこすることにより、ポリアミド層をフォトリソ層の開放画像領域でポリエステルフィルムからきれいに除去できた。得られた画像材料は写真製版のための製版用マスターとして有用であつた。

実施例 6

2,6 - ジ - (4' - アジドベンザル) -

4 - メチルシクロヘキサノン 2 g

アルカリ可溶性クレゾールノボラック樹脂 10 g

エポキシ樹脂 (実施例 1 に同じ) 0.5g

ブチラール樹脂
(エスレックス BMS、積水化学製) 1g

溶 剤

(エチルセロソルブアセテート/トルエン/
酢酸ブチル = 2/1/1) 100 g

09